

聖書:ルカの福音書4章1～15節

説教:御霊によって

はじめに

イエスがヨルダン川でバプテスマを受けられると、天が開けて鳩のような形をした聖霊が降り、父なる神が語りかけられました。こうして十字架に向かう旅がスタートします。

その旅の始まりに、イエスは悪魔から三つの誘惑を受けます。なぜこのような誘惑を受けるのか。イエスはいとも簡単に悪魔の誘惑を退けているように見えますが、実際はどうだったのか。そして、このことは私たちにどんなことを教えているのか、ともに考えてまいります。

## 1 パンだけで生きるのではない

### 1) 石をパンにしなさい

イエスは聖霊に満たされながら荒野に向かい、そこで四十日間断食をされたとき空腹を覚えられ、悪魔から三つの誘惑を受けられました。最初の誘惑はこうでした。3節。「あなたが神の子なら、この石に、パンになるように命じなさい。」

悪魔の語り方は非常に巧妙です。言い換えればこうなる。「あなたがこの石をパンに変えるのを私に見せてくれたら、あなたが神の子であることを認めよう。」ここには大きな罠が仕掛けられています。どんな罠であったか。イエスの応答を見ながら確認します。

### 2) 申命記8章3節

4節。「『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」これは申命記8章3節に書いてあり、聖書を読んだことのない人でも知っています。ときどき誤って使われることもあるので一言触れておきます。たとえば、教会には食べ物をご覧くださいと言って来られる方がおられるのですが、その方に私はこう言うべきでしょうか。「聖書には、人はパンだけで生きるのではない、と書いてあるので、このままお帰りください。」まさかそんなはずはない。イエスはどのような意味でこのような答え方をしたのでしょうか。

### 3) ご自分のからだを分け与える

もちろんイエスは石をパンに変えることができます。しかし、もしそうしたらどうなるでしょう。悪魔が考えているような意味で、イエスが「神の子」であることは証明されるかもしれません。し

かしそれはイエスにとっては、偽物の「神の子」となってしまふのです。いったいどんなわけなのでしょう。

イエスがなにをなされたのでしょうか。9章に、イエスのみことばを聞くために男だけで五千人が集まったときのことが出てきます。日が暮れてきて、このままでは行き倒れになってしまうと弟子たちが心配しても、手もとには五つのパンと二匹の魚しかない。そこでイエスはパンを分け与えて満腹させ、余ったパン切れを集めると十二かごありました。いったいあのパンはどこから出てきたのか。イエスが分け与えたとはしか考えられない。どうやって。石をパンに変えたのか。いいえ。ご自分のからだをパンに変えたのです。そのことは聖餐式で何度も繰り返していわれる。「これはわたしのからだです。」

これでわかります。もし、ご自分の腹を満たすために石をパンに変えたなら、イエスはもう神の子ではなくなります。パンがない人たちのためにご自分のからだをパンに変える。それがほんとうの神の子なのだということを明らかにされました。

## 2 主にのみ仕えなさい

### 1) 権力と栄光をあげよう

イエスが受けられた二つ目の誘惑。悪魔は、イエスを高い所に連れて行き、6、7節でこう言います。「このような、国々の権力と栄光をすべてあなたにあげよう。それは私に任ざれていて、だれでも私が望む人にあげるのだから。だから、もしあなたが私の前にひれ伏すなら、すべてがあなたのものとなる。」

ヨブ記を見ると分かるように、悪魔は神の許しの中で、ある人たちに権力と栄光を与えてこの世界を混乱させるように仕向けることがあります。ですから、「国々の権力と栄光は悪魔の手に任ざれている」と語っても、嘘ではない。それで、ときどき有名になれるなら悪魔にたましいを売ってもよいと言う人が出てくるわけです。しかしここにも罠が仕掛けられています。

### 2) 申命記6章13節

イエスはどうか。8節。「『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」これも申命記6章13節に書かれています。悪魔を礼拝してはならない。礼拝するのは神で

ある主だけである。こんなことはわかりきったことなので、これ以上説明はいらない、と思うかもしれませんが。でももう少し深く考え見ましょう。神であるイエスは、悪魔からもらうまでもなく、初めから権力と栄光を手にしておられます。悪魔はそれを知りながら、言葉を変えればこう言っているのです。「あなた（イエス）は、権力と栄光を持つ資格があるのだから、そのまま持つていけばいいではないか。」そこだけ見れば、何も問題がないように思えます。しかし、イエスにとってこれは重大な問題でした。神の子イエスは、権力と栄光をずっと持っているわけにはいかない。捨てなければならぬからです。

### 3) 権力と栄光を捨てる

では、いつ捨てたのでしょうか。十字架でお捨てになりました。人々はそれを見ました。イザヤ書53章3節が言うとおりで、「彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。」

イエスにとって主に仕えるとは、ご自分のいのちを捨て、すべての権力と栄光を捨てることだったのです。もし、イエスがいのちを捨てなかったなら悪魔を礼拝することになってしまう。意外に思うことかもしれませんが、十字架とはそれほどことだったのだとここから教えられます。

## 3 主を試みてはならない

### 1) 神はあなたを守るはず（詩篇91篇）

イエスが受けられた三つ目の誘惑。悪魔はイエスをエルサレムの神殿の屋根の端に立たせてこう言います。9節後半から11節。「あなたが神の子なら、ここから下に身を投げなさい。『神は、あなたのために御使いたちに命じて、あなたを守られる。彼らは、その両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」

さすがに悪魔はこれまでの二度にわたる誘惑が失敗したことで戦術を変えてきました。イエスがみことばで悪魔の誘惑を退けたのならば、こちらのみことばで誘惑したやろう。そこで悪魔が引用したのは詩篇91篇11,12節です。調べると確かにそう書いてある。これに対してイエスはどうしたか。12節。「『あなたの神である主を試みてはならない』と言われてい

る。」このことは確かに申命記6章16節に書かれています。

みなさんはここを読んで疑問に思うはずですが。悪魔は聖書のみことばを土台にしているのに、どうして間違っていると言われるのか。これは他人事ではありません。ときどき、聖書にこう書いてあるから私の言っていることは正しくて、あなたは間違いだと言って、相手を攻撃し、どちらが勝ったか負けたとか、けんかになることがあります。聖書を土台としているはずなのに、どうしてこうなってしまうのか、悩んだ方もいらっしゃるかもしれません。ここは少し解説が必要です。

### 2) 悪魔の誤り

悪魔は三つの誤りをしています。一つ目。これは聖書を読むときの大原則です。聖書は、自分だけ安全なところに立って、相手に対して難しいことやあぶないことをしろ、ということはありません。もし悪魔が詩篇91篇を引用して、イエスにこうしろと言うのなら、まずはイエスに言う前に、まず自分からやるべきなのです。そこが間違っていた。

二つ目の誤り。詩篇91篇にこう書いてあるから、必ずこうなるはずである。いっけん信仰深くてもこも間違っていないように見える。でも、落とし穴があります。たとえ聖書に書いてあっても、最終的には神がお決めになることです。私たちは聖書に書かれていることは、そのとおりと信じます。詩篇91篇も信じる。しかし、そうなるのかどうかは最後は神のみこころにゆだねます。そうしないで、絶対にそうなるのだと言い続けるなら、一見信仰深いように見えるのですが、いつの間にか自分で権力を握り、この世を支配しようとする心とすり替わっていきます。悪魔はその方向に誘導しているのです。

そして三つ目。悪魔はだれを誘惑したか。神の子です。悪魔はいろいろ小賢しいことを言ったけれど、結局神を試みていたのですから、最初から間違っています。

### 3) 罪ある者として死なれ、義とされてよみがえる

イエスは申命記6章16節から引用して、「あなたの神である主を試みてはならない」と語り、悪魔を退け勝負は決まりました。しかし、結論を出すのは早い。もっとほかにも大切なことをイエスは教えています。

悪魔は相手に命令するばかりで、自分からはいっさい危険なことはしようとしません。でもイエスは、自ら進んで十字架でご自分のからだをささげられました。聖書でお語りになったことを、自ら行っていきます。

悪魔は詩篇91篇を引用して、身を投げて神が守るはずだと決めつけました。でもイエスは父なる神に仕えるために、すべての権力と栄光を捨て、ご自分のからだをパンとして与えるために、父のみこころにゆだねられました。からだは十字架で裂かれ、守りはありません。

では、詩篇91篇は間違っていたのか。そうではない。よく見てください。主はだれを守るのか。正しい者です。ところがイエスには守りがなかったということは、何を示しているのか。この方が罪あるものとなってくださったからです。

では、いつまでも守りがなかったのか。いいえ。そうではない。三日目によみがえられました。なぜですか。イエスが義とされたからです。罪ある者がなぜ義とされたのか。この方が、どこまでも父なる神を信じておられたから、その信仰によって義とされた。義とされたのですから、91篇のみことばのとおりになる。91篇16節。「わたしは、彼をとこしえのいのちで満ちたらせ わたしの救いを彼に見せる。」このみことばのとおり、イエスは死からよみがえられました。

#### 4 聖霊の助けによって

イエスが悪魔から誘惑を受けられたとき、どんなお気持ちだったのでしょうか。神の子だから、いつも平安であったのか。いいえ。この方は人となられて、人の弱さを身にまといおられます。お腹が空き、ひもじい思いをしながら私たちが感じるのと同じように、心が揺れました。でも、イエスはひとりぼっちではありません。聖霊がともにおられてイエスを励まします。

このようにイエスは私たちと同じ弱さを経験してから、宣教の働きに向かいます。人間がどれほど弱く、くじけやすく、誘惑されやすいかご存じです。弱さを知ってくださるイエスとともに歩んでまいります。